

# 小規模大学における 調査・分析者育成の試み

平成28年度第2回IR実務担当者連絡会  
於：鳥取大学

白石哲也（清泉女子大学）



## 目次

- 1) 分析者を育成する目的
- 2) 全体的なレベルの底上げ
- 3) 各部局担当者の育成



# 1) 背景

## ① 学内の事情

主要な分析は、IR担当者が学内状況を踏まえて、提案するシステム。ボトムアップ型のIR運営がなされている。

## ② 小規模大学特有の事情

他業務を兼任している。名目上は、「専従」担当であるが、実際には様々な業務を兼任している。

## ③ IRの認知と広がり

学内認知に伴う依頼案件の増加。調査・分析から説明、時には提案・実行までを担う。

## 2) 目的

### ① データアレルギーの軽減

「データ」や「統計」という用語自体への苦手意識を軽減することで、データに対する意識への変革を促す。

### ② 意味のあるデータ作成へ

「何がデータなのかが分からない」という声は少なくない。しかし、データの意味を理解することで、「意味のあるデータ」を作成し、蓄積することが可能になる。

### ③ 部局内分析者の育成

部局内で完結する調査・分析は少なくない。これには、部局内でデータを分析できる人間を育成する必要がある。



# 全体レベルの向上

# 1) 環境整備

## ① LMSを活用したe-Learningの整備

Excelの基本に関する全教職員向け研修環境の整備を実施。LMS環境内で受講可能。職員は必須。

## ② 若手職員向け学内データ講習会

月1回のペースで、各部署から1名講師として部署保有データや分析事例を持ち寄り、議論を行う。

①、②ともに人事課と共催する形でSD研修の一部として実施しており、該当者は概ね出席している。

# 各部署担当者のレベル向上



# 1) 実施方法

## IR×部署内データ分析

**目的：**データ分析者の育成、部署内データの把握

**背景：**各部署で保有するデータは、多様なであり、部署内で把握されていないデータも多い。そのためには、データ分析者の育成を通じて、部署内データを透明化を行っている。

**実際：**

- ① テーマを設定
- ② 調査・分析を実施
- ③ 部署内フィードバック
- ④ 学内データ講習会での発表





## 2) 事例

### キャリアデータ活用

#### 要望：

- ① 卒業生（卒業後1～5年目）の現在キャリアの状況が知りたい
- ② どのような学生が、どのように就職するのか知りたい

#### 既存データ：キャリアアセスメントテスト

#### 何をしたか：

- ① 卒業生向けWebアンケートの構築・実施
- ② アセスメントデータを活用した分析



## 3) 結果

### どのような変化があったか

- ① IRへ積極的な協力（データ相談など）
- ② エビデンスベースの部署内議論の活性化

### 課題

- ① 定期的な働きかけが大切
- ② 分析担当者の仕事が増加  
→仕事の仕方を変化させる？

